

2018.10.30

私立歯科大学協会

非歯原性歯痛など紹介

歯科プレスセミナーで



それぞれの講演後に報道関係者からの質問に答える小見山氏(左)と高橋氏

日本私立歯科大学協会(三浦廣行会長)は、歯科の役割の大きさや魅力について社会に情報発信するため「第9回歯科プレスセミナー」急発展を遂げる、歯科医療が見据える国民健康の最前線」を23日、東京・丸の内コンファレンススクエアエムプラスで開いた。同セミナーは2010年10月から始まり、歯周病と

「光」の安全な活用

レーザー歯学会 30回記念



「光と共に歩む歯科医療」をテーマに日本レーザー歯学会(富士谷盛興理事長)は、第30回記念総会・学術大会(沼部幸博大会長)を20、21の両日、東京都千代田区の日本歯科大学生命歯学部富士見ホールで開いた。沼部氏は開会あいさつで、レーザーやLEDなど「光」の利用が歯科医療において欠かせなくなっているのが現状と強調し、適切なレーザーによる治療について

の現状と強調し、適切なレーザーによる治療について述べている

全身とアンチ関係、科、要介無呼吸AM冠、回は、非、育成に、松戸齒、氏は、端、かかわ、じてし、咀嚼筋、スや三、場合、袖、うもの、歯が原、医師が、できる、携に、になる、

骨粗しょう症 パノラマでリスク判定

日本人歯科医の論文が国際的に注目

パンoramレントゲンで顎皮膚質骨の幅を測定することで骨粗しょう症のリスクを判定することができる。兵庫県三田市で開業する大槻英人氏が2017年4月に発行された世界歯科連盟機関誌「IJ」67(2)に論文を掲載。

同論文は、ポーランド・ポメラニア医科大学専門横断科学教室のKatarzyna Grocholewicz氏の論文「BMC Oral Health」(2018.18:27)にも引用される

など、国際的な注目を集めている。大槻氏らの研究は330人の患者を対象に、パノラマレントゲンの所見を下顎皮膚質骨の状態により三つのクラスに区分。超音波検査による骨密度(BMD)と照合して、パノラマレントゲンの所見の信頼性を評価したものの。

結果、女性患者のほとんどが下顎皮膚質骨の重度の浸食が認められるクラス3で、BMDの値も低く、パノラマレントゲンの所見による骨粗しょう症のリスクスクリーニングに臨床的意義があることが示唆されたものの。人口構成の高齢化に伴い、大腿部骨折による寝たきりを招くなど骨粗しょう症が社会的に深刻な問題となっているが、受診頻度が高く、パノラマレントゲンを使用する歯科で早期のスクリーニングをする体制整備には、整形外科医などからも期待が寄せられている。



小町通 幸美 幸

して知らなごうとを学ばず、ルギーをもらえますし、メールのやりとりしかでき



「キャピテーション」は、歯の根を固くする効果がある。キャピテーションは、歯の根を固くする効果がある。キャピテーションは、歯の根を固くする効果がある。